

試験のための 知識確認は不要！！

事故連続！ 業務の集中を妨げる要因では！？

毎年5月に運転士、車掌に対して実施されている「知識確認」、そして今月から「知識確認」の基準点以下に実施されている、いわゆる「追試」で日夜、本来業務以外で神経をすり減らしている乗務委員の皆さんは少なくないはずです。

そもそも「知識確認」が「国土交通省の省令？」と会社は導入した理由をそれとなく言っていますが、JR他社ではこのような「試験」は全く行われておらず、その導入目的に疑問を感じずにはられません！

「命令と服従」の社員管理のためなのか？

会社が認めた試験に合格した者が、運転士、車掌として日夜業務しています。また、運転士は、「国土交通省」が認めた「動力車操縦者運転免許証」を持っています。それにもかかわらず、実施されているのは何故でしょうか・・・？

この「知識確認」は、導入目的もさることながら全く不平等・不公平で、「追試者」をとってみるならその大半が、初日から3日目までに受けた乗務員に集中しているのが今回を含めこれまでの慣例となっています。

まさに不平等・不公平など会社にとっては関係がなく、ただただ「追試者」を適当に出す実績づくり、社員管理をより強固なものにする「試験」のためだけのものではないでしょうか？

東京のユニオンの対話集会で出された意見で「日常の業務では全く必要性のない事が多く出題されている」と問題になっていた通り、必要性に疑問符を打ちたくするような問題や、本来業務ではブロック図（マニュアル）を見ながら一つ一つマニュアルと照らし合わせ、取り扱いに間違いや疑いのないように作業するのが本来であるにもかかわらず、ブロック図（マニュアル）を丸暗記させる、いわゆる記述式というのが当たり前化されているところにも問題があります。

そして、管理者も実施されているとのことですが、「追試者」など聞いたこともなく、「管理者や管理者により近い人はそれなりに答えを知っているのでは！？」「ましてや採点者が管理者自らだから当然落ちる者などいない」ともつばらの乗務員間では当たり前の話になっています。

また、4月～6月に東京から大阪の運輸所で事故が連続して発生しています。「知識確認」のため「大量の暗記」が要求され、本来業務にプラスして神経がそこに集中することは明白です。

**会社は本来業務に集中できる環境をつくらなければなりません。
その意味からも「試験のための知識確認」は廃止すべきです！！**